

体力向上・運動に対する意欲を高める 取組

学校名 柳井市立柳東小学校（山口県）4・5・6年
全校児童数 221名（男子120名 女子101名）
（本実践に係る問合せ先）
電話番号 0820（22）0625
学校メールアドレス ryutosyo@edu.city-yanai.jp

1 実践（研究）のねらい

- （1）オリンピックによる指導を受けることによって、ハードル走に関する興味・関心や技能の向上を図るとともに、体力向上についての意欲を高める。
- （2）車いすバスケットボール選手との交流を通して、個人の特性に応じてスポーツに親しみながら豊かな人生を送っていることを知り、障害者スポーツへの理解を深めるとともに、運動に対する意欲を高める。

○課題を解決するために実践した具体的な取組について

1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

（1）オリンピックによる陸上教室開催（5・6年生）

10月に行った柳井市陸上記録会に向けて、オリンピックの成迫健児さんを招き、5・6年生を対象に陸上教室を行った。ハードル走において欠かせない柔軟性を向上させるためのストレッチ、踏切のタイミング、正しい空中姿勢についての指導を受けた。また、実際に成迫さんにハードルを走り越す姿を見せてもらい、オリンピックの生の動きに学んだ。

（2）車いすバスケットボール選手による障害者スポーツ教室開催（4年生）

車いすバスケットボール選手の河本公成さんを招き、4年生を対象に障害者スポーツ教室を行った。河本さんの経験や実際に扱っている道具を基に、車いすバスケットボールやボッチャなど、様々な障害者スポーツの紹介を聞いた。その他にも、競技用の車いすと日常生活で使用する車いすのちがいをみつけたり、アーチェリーで使用する弓を触ったりして、障害者スポーツで扱う用具にも慣れ親しんだ。最後に、児童が実際にボッチャとフライングディスクを体験し障害者スポーツの楽しさや難しさを体感した。

○成果の意義

- 1 オリンピアンからハードル走の指導を受けたことで、多くの児童がテンポ良く走りながら正しい空中姿勢でハードルを走り越すことができるようになった。それに伴って記録も向上し、友だちと競いながら走ることを楽しむ姿が多く見られた。また、児童から「中学生になったら陸上部に入りたい」という声が挙がっており、運動への興味・関心が高まる貴重な体験となった。
- 2 4年生のほとんどの児童がオリンピックしか見たことがないという現状だったが、障害者スポーツ教室を通して、今まで経験したことがないスポーツに親しむことで、2020年の東京パラリンピックにも興味を抱いていた。特性に合わせてルールを変更することで、誰でもスポーツを楽しむことができるということを学べたことも大きな成果である。

○今後の課題

- 1 児童は、オリンピックが実際に走っている姿を見たり、技術を教わったりしたことで、スポーツ選手への憧れが一層高まった。そして、自分にもできる可能性があるという意識を抱くことができた。今後は児童の可能性を引き上げられるように、教員の指導力向上に努める必要がある。また、教員自身も児童に夢を与えられるよう、資質を磨くことが大切である。
- 2 今回の取り組みに参加した4年生は、障害者スポーツへの理解を深め、パラリンピックへの興味を抱くことができたが、全校児童には浸透していない。そのため、今後は全校児童が様々な運動に興味をもって取り組むことができるように、学校全体で授業づくりや環境整備に努める必要がある。

○ 研究内容

5・6年生陸上教室

成迫さんに空中姿勢の指導を受けている様子。



5・6年生陸上教室

成迫さんの実演の様子。



4年生障害者スポーツ教室

車いすのちがいを確かめる児童の様子。



4年生障害者スポーツ教室

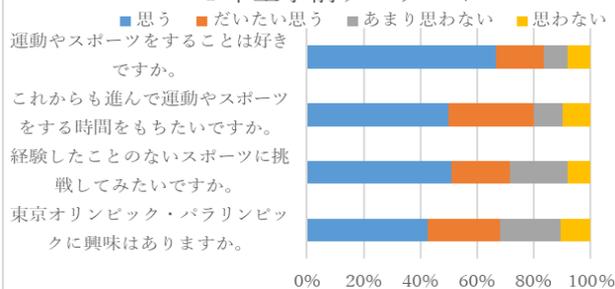
フライングディスクに挑戦する児童の様子。



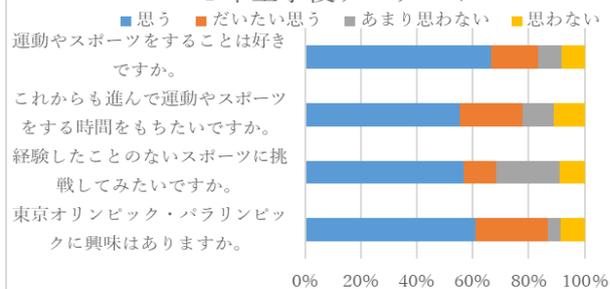
アンケートの結果

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を実施する前後の運動遊びに関する児童アンケート

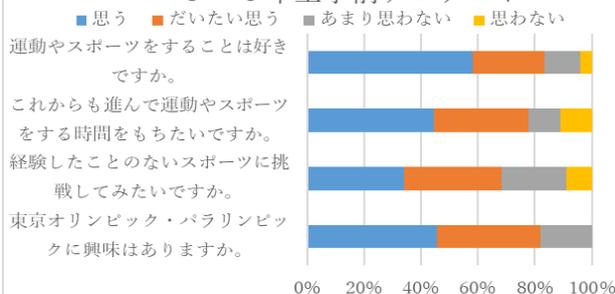
4年生事前アンケート



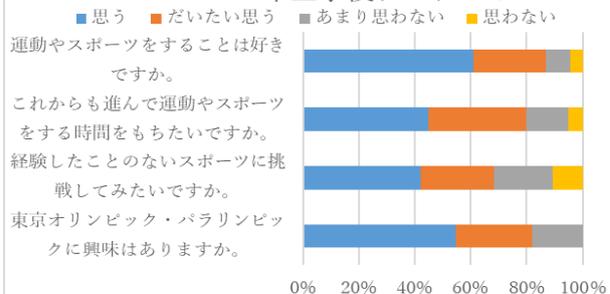
4年生事後アンケート



5・6年生事前アンケート



5・6年生事後アンケート



今後の取組について

「遊び・運動大好きやまぐちっ子育成事業」を終えて

今回の取組は、児童にとって運動やスポーツをすることへの興味・関心を高める素晴らしい体験となった。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを良い機会として、これから運動好きな児童が増えていくように、授業づくりや環境整備に努めていきたい。